

丹 BAL 台湾展望

研究推進部長 丹生 憲一

2年生の丹 BAL 台湾では、5月25日に第1回目のオンライン交流を行うことが決まりました。昨年に引き続き、桃園市の治平高級中学（私学）と台南市の国立台南第一高級中学との交流になります。

4月20日（火）は、前回の「自己紹介シート」「台湾で流行っていること」に加えて「台湾の歴史を知ろう」「台湾の高校生に伝えたいこと・台湾について知りたいこと」について調べ、考えました。中には「台湾にイケメンはいるのか？」と真剣に話し合っている「女子」班があります（…それは、いるでしょうけど）。昨年の「昼休み交流」で治平の女の子たちが、「イケメンを紹介して！」と呼びかけていたことを思い出しました。国は違っても、考えることは同じですね。その治平でも、応用日本語学科の生徒たちが、日本語で自己紹介ボードを作成して準備を進めています。昨年度、流暢な日本語に加えて、日本文化のことを詳しく学んでいる様子に感銘を受けましたが、今年はさらに多くの時間を割いてこの交流に挑んでいただいているようです。下の3枚の写真をいただいたので、準備中に紹介すると、そこに映っていたインスタグラムのアカウントを見て、さっそくアクセスする場面も見られました。来週の丹 BAL 台湾では、各校・各班のマッチングを行う予定です。

4月26日（月）、後藤みなみさんと打ち合わせをして、今年度の交流についてアドバイスをいただきました。今進めている準備の様子や、台湾の2校の反応を見て喜んでおられます。昨年、できなかったことに「台湾のデジタル大臣、オードリー・タンさんとお話する」というプログラムがあり、「今年は、学年を問わず、有志を募って実現させたいですね」と話してきました。

オードリータン（唐鳳）さんは台湾の政治家でプログラマーです。2016年に台湾の行政院に入閣し、デジタル担当を務めています。14歳で学校生活になじめず、中学校を中退されたそうですが、TEDのスピーチを聴いていると「インターネットで全て必要なことは学んだ」とおっしゃっています。2005年には、男性から女性へ「性別以降（トランスジェンダー）」されました。政治家として、「デジタル技術とシステムによって政府の問題解決を補佐し、民間と政府のコミュニケーションの促進、強化を行う。自分の役割は特定の団体の利益のために動くことでも、政府のために政策の広報を行うことでもなく、より多くのアイデアと力を結合させる『パイプ』となることだ。」と述べておられます。あらゆる政府の情報をインターネット上にあげ、市民の意見を自由に書き込めるサイトを作り、そこで決定したことを施策に採用するなどしています。一つ、YouTubeの映像を紹介します。（<https://www.youtube.com/watch?v=LscTx6DHH9I>）（QRコードは右下）新型コロナウイルスが中国の武漢で発症した時、投稿サイトにあがった情報をいち早くキャッチし、24時間以内に政府内でオンラインによる協議を行い、迅速な決断によって水際対策に成功しました。その後も、マスクの在庫状況をインターネット上でわかるようにし、供給をスムーズにすることで混乱を防いだり、「小さな男の子が、ピンク色のマスクをしていって学校でからかわれた」と聞くと、閣僚たちがそろってピンク色のマスクを着けたりするなど、コロナ禍に限っても彼女が行った行動は注目を集めています。



後藤さんが、オードリー・タンさんを勧める理由を下記のようにおっしゃいました。

「彼女のこれまでの経歴…学校になじめなかったり、自分の性について悩んだり…そんなことを経験しながら、みんなで一緒によい社会を作って行こうと呼びかける姿勢には感服します。直接話すことで、それを感じ取ってもらえたらいいと思います。」



*GWで探究活動は小休止。探究Ⅰ・Ⅱではテーマ決定からグループ分けが進んでいます。その様子は次号にて…